

## 《アンケート調査》

# 料理を習ったシニア男性、10年間でどう変わった？

## 《2008年版》

### ■調査目的：

・ベターホーム協会では、中高年男性の生活面での自立をサポートするため、1991年から男性対象の料理教室を全国で開催しています。

・この調査は、料理教室に通った中高年男性の家事、特に料理に対する意識と実態が、この10年間でどう変化したかを把握するために実施したものです。

■調査対象：ベターホームの料理教室を1年間受講した60代・70代の男性

■調査時期：2008年10月

■調査方法：無作為に抽出した対象者にアンケートを郵送し、返送してもらいました。その結果と、同様の方法で1998年8月に実施した調査結果とを比較しました。

### ■送付数および回収数：

実施年	1998年	2008年
送付数	150	250
回収数	129	140
回収率	86%	56%

■調査地域：首都圏、京阪神、名古屋、札幌、福岡、仙台

### ■年代構成：

実施年	1998年	2008年
60代	89.9%(116人)	85.7%(120人)
70代	10.1%(13人)	14.3%(20人)

### ■職業構成：

実施年	1998年	2008年	変化
有職	27.1%	36.4%	+9.3%
無職	72.9%	63.6%	-9.3%

\*有職の割合が増加。定年後も働く人が増えている。

※回答比率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入したため、単一回答でも、個々の比率の合計が100%にならないことがあります。

## ■調査のまとめ

### ●料理を習ったシニア男性が、家で実際に料理をするようになった

10年前の調査では、家で月に2回以上料理する人の割合は44.3%。半数以上の人が、料理教室に通ったにもかかわらず、家ではほとんど料理をしていなかった。

今回の調査では、料理教室で料理を習った後、家で実際に料理する人の割合が大きく増加(+21.4%)し、65.7%になった。(3ページ、設問5)

### ●自分が家事をすることは当然のことだと思っていて、実際に家事をこなしているシニア男性が増えた

10年前は「今後、家事に取り組みたい」という回答が一番多かったが、今回の調査では「家事は当然のことと、今もやっている」という回答が一番多かった。料理だけでなく、家事全般を家庭で実際に行っているシニア男性が増えた。(4ページ、設問6および7)

### ●料理に対する姿勢にも変化が。「料理をしなくては」という強迫観念ではなく、料理を楽しむ人が増えた

料理はおもしろい、今後も続けたい、という人の割合が増えた(5ページ、設問8)。2008年調査では、各設問の「その他」コメント欄に、「料理が好き」「楽しい」「趣味として」というキーワードが目立った。10年前は「料理をしなくては」という義務感に駆られて料理をしていたシニア男性が、現在は肩の力を抜き、自然体で料理に取り組み、そんな自分を楽しんでいることが伺える。

1. 料理教室を受講しようと思ったのはなぜですか？（複数回答）

	1998年	2008年	変化
①定年を迎え、時間ができたので	56.6%	54.3%	-2.3%
④趣味のひとつとして	39.5%	41.4%	+1.9%
②ひとりになっても困らないように	49.6%	40.7%	-8.9%
③妻の手助けをしたい	46.5%	34.3%	-12.2%
⑤老化防止のため	30.2%	28.6%	-1.6%
⑥家族にすすめられたから	19.4%	22.9%	+3.5%

\*最も多い理由が「定年を迎え、時間ができた」ということに変化はない。

\*「ひとりになっても困らないように」は-8.9%、「妻の手助けをしたい」は-12.2%。「趣味のひとつ」「家族にすすめられて」という回答が微増している。「料理をしなくては」という義務感から習う、というよりは、趣味として楽しむという、料理への前向きな姿勢がうかがえる。

【その他コメント(2008年調査)より抜粋】

毎日の料理作りのバラエティをふやすため。	東京・70代
仲間が出来るため。料理が好きだから。	愛知・60代
食べることが好き、美味しい料理を見ると家でも食べたいと思う。	千葉・60代
留守番の日に自分で作りたいため。	大阪・70代

2. 料理教室に参加するのにためらいはありましたか？

	1998年	2008年	変化
①なかった	78.3%	77.9%	-0.4%
②あった	21.7%	22.9%	+1.2%

\*料理教室へのためらいがない人は8割弱で、この10年での変化はない。男の料理教室は物珍しいものではなく、定着している。

3. 「ためらいがあった」方は何が気がかりでしたか？（複数回答）

	1998年	2008年	変化
①料理ができないので、授業についていけないか不安だった	53.6%	56.3%	+2.7%
②男なのに料理を習うのは恥ずかしい	39.3%	28.1%	-11.2%

\*料理教室への抵抗よりも、自分の調理能力への不安が主な理由であることは変化なし。

\*ためらいがあった、と回答した人のうちで、「男なのに料理を習うのは恥ずかしい」という回答は1割減少。料理は女性がするもの、という先入観が減っていることが表れている。

\*その他の理由としては、新しい人間関係への不安などが挙げられていた。

4. 現在、家で食事を作っているのは誰ですか？

	1998年	2008年	変化
①妻	79.8%	72.9%	-6.9%
②自分	8.5%	12.1%	+3.6%
③妻と自分が交代で作っている	9.3%	8.6%	-0.7%
④その他	2.3%	6.4%	+4.1%

\*妻だけが食事を作る家は高率だが、減少(-6.9%)している。

\*夫が作っている割合は約12%で、増加(+3.6%)している。

5. 現在、あなたはどの程度料理を作っていますか？

	1998年	2008年	変化
①ほとんどしていない	55.0%	34.3%	-20.7%
②月に2、3回程度	15.5%	27.1%	+11.6%
③1週間に1、2回程度	14.0%	19.3%	+5.3%
④ほぼ毎日	10.1%	11.4%	+1.3%
⑤1週間に3、4回程度	4.7%	7.9%	+3.2%
⑥その他	0.7%	0%	-0.7%

\*注目に値する変化のあった項目。98年の調査では5割を超えていた「料理はほとんどしない」という回答が大きく減った(-20.7%)。一方、「料理をする」という回答(②③④⑤)は、どの頻度でも増加しており、合計すると2008年は65.7%で、1998年の44.3%に比べると21.4%増加している。

\*10年前は料理教室に通っても家では料理しない人が半数以上を占めていたが、現在は家でも料理をする人が増えた。「義務感からではなく、趣味として楽しみたい」という理由で料理を始めた人が増えたことがその一因ではないだろうか。

6. 自分が家事をすることについてどう思いますか？

	1998年	2008年	変化
①当然のことだと思うので、今でもやっている	24.0%	32.1%	+8.1%
②今はやっていないが必要なことなので、今後積極的に取り組みたい	42.6%	29.3%	-13.3%
③必要だとは思いますが、やらなくてすむならやりたくない	21.7%	22.9%	+1.2%
④その他、無回答	11.7%	15.7%	+4.0%

\*「当然のことなので今でもやっている」割合が3割を超え、98年の調査で1位だった「今はやっていないが今後積極的に取り組みたい」を抜いて1位になった。家事は女性がやるものではなく、分担することを当たり前だと感じて実際に行っている人の割合は、まだ3割ではあるが、10年前と比べ確実に増えている。

\*2008年調査では、「料理が好き」「趣味として」という、特に料理に関する前向きなコメントが目立った。

【その他コメント(2008年調査)より抜粋】

ノルマとしてではなく趣味としてやりたい。朝食・昼食を自分で用意するのに抵抗はない。	神奈川・60代
料理をしているのが楽しい。手間隙かけて作ったものを家族が「おいしい」と言ってくれるのがうれしくて仕方がない。義務感とか当たり前とか言う感じはほとんどない。	大阪・60代
定年後時間が有る為と料理が好きで作るのが好き。	愛知・60代
妻も仕事を持っているので協力するのが当然。	愛知・60代
自分の趣味の範囲と妻の手助け程度。	東京・60代

7. これから身につけたいと思っている家事は何ですか？（複数回答）

	1998年	2008年	変化
①料理	88.4%	64.3%	-24.1%
②家や機具類の修理	35.7%	32.9%	-2.8%
③掃除	24.0%	25.0%	+1.0%
④食品や日用品の買い物	40.3%	21.4%	-18.9%
⑤洗濯	23.3%	20.7%	-2.6%
⑥家計の管理	14.0%	18.6%	+4.6%
⑦食器洗い	26.4%	17.1%	-9.3%

\*これから「料理」を身につけたい、という回答が24.1%と大幅に減っているのは、設問5(3ページ)にある通り、実際に料理をしてすでに身につけている人が多くなったからであろう。

\*「掃除」「家計の管理」以外のすべての項目が減少している。家事に対する意欲が減少したというより、すでにやっているもので、「これから身につける対象」ではなくなっていることが伺える。2008年調査では、「すべて今でもやっているのが該当なし」という旨のコメントもあった。

8. 今回、料理教室を受講して、いかがでしたか？（複数回答）

	1998年	2008年	変化
①参加したのは有意義だった	81.4%	80.7%	-0.7%
②今後も料理を続けようと思った	43.4%	65.7%	+22.3%
③料理はおいしいものと思った	43.4%	59.3%	+15.9%
④自分にも料理ができそうと思った	63.6%	55.7%	-7.9%
⑤料理はむずかしいものと思った	14.0%	19.3%	+5.3%
⑥自分ひとりではできそうにないと思った	1.6%	1.4%	-0.2%
⑦今後も料理はしないと思う	2.3%	1.4%	-0.9%

\*「有意義」という回答が8割を超えていることに変化はなく、料理教室の満足度は高い。

\*「続けたい」が+22.3%と、大幅増。「おいしい」が+15.9%。料理の楽しさに目覚め、料理に対する前向きな姿勢が感じられる。

【その他コメント(2008年調査)より抜粋】

私の場合、必要があるためやっているがやってみると楽しいし頭の運動にもなる。決して難しいもの、高価なものを作る必要はないのでごく普通の家庭料理を着実に学んでいきたい。	東京・60代
ほとんど経験がなかった料理を習い、作る過程や味覚の大切さを、また、料理そのものの奥深さを知り、部分的ではあるが料理の楽しみを新たに発見した。	埼玉・60代
「魚に塩をふるのは、くさみを取り、身を引き締めるため」とか「煮立てて味を閉じ込める」とか論理的で面白い。	千葉・60代
失敗をおそれず何ごとにも挑戦ですね。レシピ通りにやれば大体うまいくんだということも発見。男性だけだったので気後れしなくてすみしました。	埼玉・60代
家でも妻の料理に対する苦労がわかったので、今後は積極的に進んで料理を憶え毎日の食生活を豊かなものにしたい。	東京・60代

[自由記述欄(2008年調査)から]

フリーコメント欄に、妻からのコメント欄も設けたところ、妻の反応で多かったのは ①もっと家で実践してほしい／②夫が作ると時間がかかるが見守っている／③自分が寝込んだときや出かけた際に料理がまかせられて感激 という内容だった。

### ①もっと家で実践して欲しい

夫	その妻
”いざ”という時のために参加した。料理はやろうと思えば出来るということと、毎日料理を作る妻は大変だということが判った。(神奈川・60代)	習ってきた料理は1回は復習しています。そのときは結構楽しんでやっています。もう少し家で作る回数が増えると良いと思いますが…。
定年を迎えて時間にゆとりが出来たためと、雑誌を見ていて自分で食べることの(作ることの)必要性を感じたため、参加した。メニューを通じて家内との会話が多くなった。作り方、味、食材の下ごしらえ等。(神奈川・60代)	老後、各々料理できることは必要と思いつめました。約1年すぎ台所に立つ姿も”さま”になって来たと思います。願わくばせっかく習った料理などもう少し数多く作ってくれるとありがたいのですが。
オン(仕事)からオフへの切り替え手段として最適と考え、参加した。食材への関心が高まった。家庭での実践が伴わないので評価が低いが今後に期待はしている様だ。まずは厨房の環境を教室に近いものに整えることから始めたい、女房との軋轢はあるが。(奈良・70代)	毎回教室で習った料理の事やその時の様子を話してくれます。しかし、まだ一度も家では作っていません。私が居なくなれば実力を発揮するのでしょうか？

### ②夫が作ると時間・お金がかかるが見守っている

夫	その妻
・料理のテレビ番組や本をみる機会がふえた ・料理のアレンジを考えるようになった(千葉・60代)	料理も買い出しから始まるので大変！一品出来る上と、又、一品と、時間かかりますが、月を追うごとに腕も味も上がってきたようです。
自分でも料理しようと思ったらできる！(千葉・60代)	正直言ってマニュアル通りで時間がかかりますが、料理をすることによって私に対するの理解も深まり大変さが分かったみたいです。
妻の家事(毎日の食事作り)は大変だと思った。特に材料を無駄のないように考えなくてはならないから。(名古屋・60代)	料理教室に参加してからは、2-3回程度ですが積極的に作ってくれました。本当に良かったです。もっともテキスト通りの材料をと言う事で材料費が高つくりますが、料理人になったつもりで意気揚々と作っていますのでたのしくなります。また、完成品は美味しく次回が楽しみです。

③自分が寝込んだときや出かけた際に料理がまかせられて感激

夫	その妻
<p>習った事を、家でやると自分も楽しいし妻も喜んでくれるので家庭円満になる。(埼玉・60代)</p>	<p>全然やったことがなくても気後れせず参加できて喜んで通っている様子です。帰ってくると私に習った事を説明してくれますので私も勉強になっております。又、私が留守の時には夕飯を作ってくれる様になりましたので大変助かります。</p>
<p>家内が珍しくカゼで寝込んだ際、料理が出来ず仕出し弁当を購入した。これではイカンと思い自分でもやれる様にしたいと参加した。 自分が用意することにより、家内が、「昼食や夕食の支度のために外出先から慌しく帰宅しなくてよいので、ゆっくりと外出が楽しめる」と喜んでくれた事で、料理を続ける気持ちになった。(神奈川・60代)</p>	<p>教室で習ったものを今まで何度が主人ひとりで作って家で食べさせてもらいましたがどれもおいしく今では外出で遅くなったり具合が悪くなった際も安心して頼めるようになりました。 定年前は時間的に無理なことでしたので主人がお料理を作ることなど想像も出来ませんでした。が、1年足らずでこんなにも変わるものかと驚き、又、嬉しく思っています。</p>
<p>妻が喜んでいる。(神奈川・70代)</p>	<p>主人が料理に興味をもったのがうれしい。私がかぜをひいたりしたとき食事をととのえてくれるので助かる。</p>
<p>月に1～2回ぐらいしか作らないが炊き込みご飯、親子丼、鰯の塩焼きなど家内や娘に好評です。 鰯の塩焼きはえらも取るのかとびっくりされました。だんだん要領よく作れるようになってと思います。(千葉・60代)</p>	<p>始めたばかりのころは計量スプーンを間違えて味が薄すぎたり下ごしらえであきてしまいバトンタッチさせられたりしましたが、何回か作るうちに要領がよくなり応用がきくようになりました。先日私が風邪で数日寝込んだことは夕食を作ってくれました。大感激でした！</p>

以上